



POINT 1

思・判・表

教材のつながりを意識したパフォーマンス課題の設定

複数の教材を組み合わせた単元を構成し、パフォーマンス課題を設定することで、子どもが自然と単元全体を見通して学習に取り組み、「思考力、判断力、表現力等」を育むことができる。

国語科では1つの教材を1つの単元として授業を行うことが多く、教材と単元の線引きが曖昧になることが多いように感じる。「読むこと」の授業が1つの教材で完結したり、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の課題設定が、その教材のためだけに行われたりすることがあるのではないだろうか。

「思考力、判断力、表現力等」を高めるためには、教材を個別に扱うのではなく、単元ごとのまとまりを見通して学習することが重要であると考える。また、単元のゴールとしてパフォーマンス課題を設定することで、学習に対する必要感やその教材で学んだことを別の場面で活用する力につながっていくだろう。

「読むこと」の「タオル」という教材にパフォーマンス課題を設定する際、「話すこと・聞くこと」の「説得力のある提案をする」という教材を組み合わせることで単元を設定した。

時数	学習内容	教材	課題
1	パフォーマンス課題を確認し、「タオル」の本文を読む。	タオル	象徴表現について考え、表しよう。
2	「タオル」の登場人物、時間、場所の描写から内容を理解する。		
3	「タオル」に描かれた象徴表現について考え、交流する。		
4	「タオル」の象徴表現を提案文書にまとめるため、構成メモをまとめる。	説得力のある提案をする	提案文書を作成
5	象徴表現を他者に伝えるため提案文書をWordで作成する。		
6	作成した提案文書をもとに発表、交流を行い相互評価を行う。		

【端末に集積したパフォーマンス課題】

1時間目に単元全体に関わるパフォーマンス課題を確認することで、教材や領域をまたいでいても、子どもは見通しをもって学習に取り組むことができる。また、単元のゴールとしてパフォーマンス課題を設定することで、学習に対する必要感やその教材で学んだことを別の場面で活用する力につながっていくだろう。

むことができる。また、単元のゴールとしてパフォーマンス課題を設定することで、子ども自身が見通しをもって授業づくりが可能になると考える。

ほかにも以下のような実践を行った。

- ・「紙の建築」で学習した文章構成を意識し、「根拠をもとに意見文を書く」につなげた単元 ※ 「読むこと」と「書くこと」の教材の組合せ
- ・「敬語」で学習した言葉遣いを、「構成を明確にして手紙を書く」で実践することを意識した単元 ※ 「言葉遣い」と「書くこと」の教材の組合せ

このように、教科書に掲載されている様々な教材を組み合わせることで、子ども自身が見通しをもって授業づくりが可能になると考える。

パフォーマンス課題は、タブレット端末を活用してWordやExcel、PowerPointなどのアプリで取り組むと、データの集積が容易になり、子どもが単元や教材で学んだ内容を振り返りやすくなるだろう。

名前	更新日時	更新者
01Allは哲学できるか・具体例をもとに説明...	2分前	祢津 豊
02async同期しないこと・問いかける言葉	約1分前	祢津 豊
03孫への思い・和歌の調べ	約1分前	祢津 豊
04風景と心情	約1分前	祢津 豊
05俳句の味わい・自己PR文を書く	約1分前	祢津 豊
06故郷・表現の工夫を評価してスピーチを...	数秒前	祢津 豊

【タブレット端末に集積したパフォーマンス課題】

このような単元構成や課題設定を行うことで、子どもは自然と見通しをもって学習に取り組むことができ、「思考力・判断力・表現力等」を育むことができる。また、単元のゴールとしてパフォーマンス課題を設定することで、学習に対する必要感やその教材で学んだことを別の場面で活用する力につながっていくだろう。

# 構成の工夫

士幌町立士幌町中央中学校 教諭 祢津 豊



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

態度

## 指導と評価を一体化するための「振り返り」

単元ごとの振り返りや、1単位時間ごとの振り返りを使い分けることで、次の学習につなげたり「主体的に学習に取り組む態度」の評価に活用したりすることができる。

「主体的に学習に取り組む態度」を見取るためには、子どもの振り返りを効果的に活用することが重要だと考える。見通しをもって学習に取り組んでいたか、自分自身にどのような力が身に付いたのかなどの観点を提示し、それらを子どもが自分の言葉でまとめる。単に「分かった・分からなかった」の振り返りを行うよりも、子ども自身が学びを客観的に認識することができ、教師も「主体的に学習に取り組む態度」の評価に生かすことができるだろう。

効果的な振り返りの活用を行うために、子どもが単元終了後に記入する「振り返りA」と、1単位時間ごとに授業の内容を要約して記入する「振り返りB」の2つを使い分けて実践を行った。

記述を行う。例えば、6単位時間で行った単元であれば、その中の特定の時間を取り上げるのではなく、単元全体を通した振り返りを記入する。教師が評価をする際は、単元全体を通した学びの視点が十分に記載されているかを見取り、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に活用する。

4/4	7/11のCDと聞 3/24の5/7.7シートに疑問に答えた。
7/27	7/11の疑問の答えがこれに教科書から答えを探した。
4/20	7/11の象徴表現について考え 提案 文書 ハマとを学ぶ 構成メモを書いた。
7/1	7/11の7/11シートに答えてから提案文書を書き終えた。
5/9	7/11の7/11シートに答えてから提案文書を書き終えた。7/11の7/11シートに答えてから提案文書を書き終えた。

【1単位時間ごとに記入する「振り返りB」の例】

単元名	〇〇の活動を通して、△△な力が身についた
虹の足	<ul style="list-style-type: none"> <li>虹の足を読む活動を通して、表現技法や擬人法について理解することができた。</li> <li>詩の創作を通して、どうして擬人法を取り入れるかや何を伝えるかを考える力が身についた。</li> <li>他の人の詩を読み、新たな見方・考え方を保つことができた。</li> </ul>
7/11 読得力のある 提案をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/11を読む、教科書の象徴表現をしっかりと見つけることができた。</li> <li>時間の描写や場所の描写も本文から探し出せた。</li> <li>象徴表現を提案文書にする、発表する活動で色々な型にふれたり、根拠や読得力のある提案をすることができた。</li> </ul>

【単元終了後に記入する「振り返りA」の例】

「振り返りA」では、「どの教材を組み合わせで単元としたか」「どのような活動（パフォーマンス課題）を行ったか」「どのような力が身に付いたか」などの視点を示し、子どもが自由

「振り返りB」では、毎時間の学習課題や教師・友達の印象的な発言、学習内容などを子どもがまとめていく。その積み重ねが、「振り返りA」を記入する際のヒントとなったり、授業の最初に子ども同士で行う既習事項の想起に活用したりすることができる。

このように、役割の異なる振り返りを場面に応じて効果的に使い分けることで、学習者のメタ認知能力の醸成を促すだけではなく、授業における「主体的に学習に取り組む態度」の変容も見取ることができるだろう。これらの取組が、指導と評価を一体化するための一助になると考える。



POINT 1

知・技

ICTを活用した授業の工夫

AIドリルや新聞記事データベースなどを効果的に活用し、「知識及び技能」を身に付けることができるようにする。

「知識及び技能」の確実な習得とともに、子どもが自らの学習を自己調整しながら主体的に学習を進める「個別最適な学び」の実現に向けて、ICTを活用した「AIドリル」と「新聞記事データベース」の活用について紹介したい。

1 AIドリルの活用

社会科における基礎的・基本的な知識の定着のために、AIドリルの活用が考えられる。

AIドリルを使うことで、子どもたち一人一人に合った難易度の問題に取り組むことができるため、子どもの学習意欲を高めながら、学力向上にもつながると考える。また、教師が子どもの学習履歴を確認できるため、子どもに合わせた学習指導を行うことができると思われる。



【AIドリルを活用する様子】

2 新聞記事データベースの活用

これまで、学習内容と実社会を結び付けるために、新聞記事の活用を行ってきた。教師が選んだ新聞記事を授業で取り上げることが多かったが、新聞記事データベースを使うことで、学

習内容と関連する実社会の出来事を、子どもが自分の力で調べまとめることができた。このように、新聞記事データベースの活用は、情報活用能力を向上させることができると考える。



【北海道新聞記事データベースの画面】



自分が生まれた年月日の新聞記事を調べる。



調べた記事を表計算ソフトに入力し、学級全体でまとめる。

	私たちが生まれた年の出来事
2009年04月	北朝鮮がミサイル発射
2009年06月	足利事件の菅谷さん無実、17年半ぶりに釈放
2009年06月	新型インフル、WHOがパンデミック宣言
2009年06月	GM、クライスラーが破綻
2009年06月	マイケル・ジャクソンさん死去
2009年07月	麻生首相、衆議院解散
2009年07月	中国ウイグル自治区で大規模暴動
2009年08月	民主圧勝、政権交代。
2009年08月	裁判員裁判始まる
2009年09月	鳩山内閣が発足

【調べ学習の様子と子どもたちが入力した画面】

～「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指して～

芽室町立芽室西中学校 教諭 掛水 成幸



POINT 2

思・判・表

NIE（新聞教育）を活用した授業の工夫

はがき新聞を活用して学習内容をまとめることで、社会の変化の様子や時代の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。

歴史的分野の学習では、各時代の特色や課題、時代の変化を整理・考察する学習が重要であると考える。

そこで、今回は学習内容ははがき新聞にまとめる実践を紹介したい。

題名		
その1	その2	その3
人物がどのように時代を変えたのか、文化はどのような文化で、それまでとどう違うのか、説明を書く。	人物がどのように時代を変えたのか、文化はどのような文化で、それまでとどう違うのか、説明を書く。	人物がどのように時代を変えたのか、文化はどのような文化で、それまでとどう違うのか、説明を書く。

【はがき新聞の様式例】

「織田・豊臣による統一事業」「江戸幕府の成立」の内容については、中世から近世へとという時代の変化を捉えることがねらいとなる。

そこで、人物や文化が歴史の中でどのような意義をもつのかを理解するとともに、ヨーロッパ人の来航などを通して新しい時代がつくられていったことに気付くことができるようにするため、評価基準を示した上で、はがき新聞にまとめる活動を行った。



【はがき新聞の作成例】

「近世の始まり」についてまとめる	
A	信長・秀吉・家康がどのように時代を変えたのかを、説明している。また、信長・秀吉・家康の違いをまとめている。
B	信長・秀吉・家康がどのような政策を実行したのかなどを説明している。
C	信長・秀吉・家康について、何をしたのか説明できていない。

【評価基準の例】

完成した作品は掲示し、子ども同士で相互評価を行う。定期的にはがき新聞にまとめる活動と相互評価を継続的に行うことで、自分では気付かなかったことや、まとめ方の工夫などを学び合うことができ、更なる学びの深化につながると考える。

POINT 1  
態度

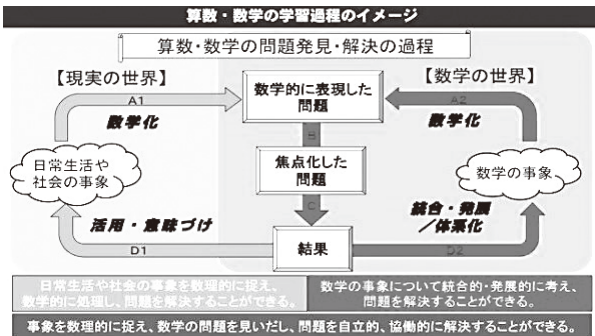
## 授業の「型」にこだわらない問題解決型の授業展開の工夫

一斉授業における自由なつぶやきや対話から、問題解決へ向けた数学用語を用いた対話への変換を行うことで、子どもがより高い興味・関心をもって学習に取り組むことができる。

子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するためには、日々の授業において、いかに「問題解決型の授業展開」を行うかが大切だと考える。

### 1 問題解決型の授業の推進

数学的活動は、「算数・数学の問題発見・解決の過程」としてイメージ図に表されている。



【出典：中学校学習指導要領解説 数学編】

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、子どもたちが興味・関心をもって取り組むことができる課題設定や教材づくりが重要だと考える。図のように、日常生活や社会の事象を数理的に捉えたり、数学の事象から問題を見いだしたりしながら、子どもが主体的に問題を解決していく授業をつくるのが肝要だろう。

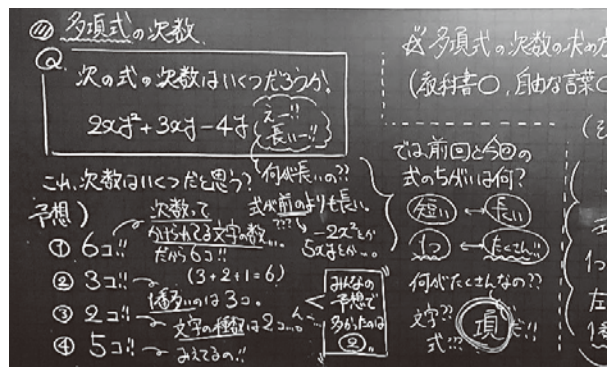
その過程で大切になるのは、いかに子どもの自由な発言を拾い、ほかの子どもたちも含めて思考を広げていくのか、またどのような補助発問を充実させていくのかであると考え。そうすることで、学習内容が深化されるだろう。

### 2 子どもの発言や発想を生かした授業展開

私は、問題に対する子どもの自由な発言を大切にしたいと考えている。そこから、自由な対話につながると更によいと感じる。教師の「こうしたい」という授業の「型」よりも、子どもたちの自由な発想から学習内容について授業をつくりつつ、ともに考えていくことが、問題解決に向け多角的な考えを引き出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながると考える。

### 3 子どものつぶやきや疑問を残す板書

問題に対する子どものつぶやきや疑問を黒板にメモしていく。そこから課題が明確になったり、問題解決のヒントになるものが見えてきたりすると考える。なお、この場面では数学用語であることにはこだわらない。



【子どものつぶやきや疑問を取り入れた板書例】

その後、子どもたちの発言のどれを数学用語に置き換えることができるのかを検討する。そして、その用語を活用して伝え合う数学的活動に昇華させていくことができると考える。

# に向けた「学び合い活動」の充実

幕別町立札幌内東中学校 教諭 小谷 和樹



## POINT 2

思・判・表

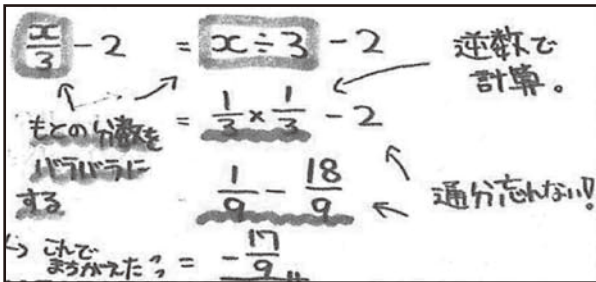
### 自由な表現から数学的表現へ向けた「学び合い活動」の工夫

ホワイトボードなどを活用した自由な表現活動から、習得した数学用語を活用した表現活動へ変換することで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「学び合い活動」を充実させる。

「主体的に学習に取り組む態度」が身に付いてくると、子どもの思考の場面が増え、自ら進んで判断したり、表現したりする機会も増えることが期待できる。その際に、発達支持的生徒指導の視点から、表現の仕方を制限せず、自由な表現から数学的表現に結び付けていくことで、「学び合い活動」がより充実していくと考える。

#### 1 ホワイトボードツールの活用

問題解決型の授業における個人思考や集団思考の際、自分の考えを自由に表現するためのホワイトボードツールを準備する。タブレット端末の「フリーボード」のようなアプリを利用するのもよいだろう。後で振り返りができるように学びの足跡を蓄積することで、子ども自身が学習を自己調整し、粘り強い取組につなげることができるのではないだろうか。



【子どもの考え方が見える記述の例】

例えば、分子の $x$ に具体的な値を代入する問題では、子どもは上の記述画面を基に、学び合い活動で他者へ説明をすることができていた。要点を色分けしながらまとめるなど、間違えた過程を明確にしておく工夫も見られた。

#### 2 自由な表現から数学用語を用いた表現へ

説明や証明といった言語による表現での解答が求められる問題の達成度が低いのは、そのような問題への抵抗感が強いからではないだろうか。授業において、最初から模範解答のような説明の記述を求められることは、子どもにとって負担が大きいと考える。

そこで、まずは自由に説明を記述し、学び合い活動の際に、自分の自由な表現を数学用語に変換することで、徐々に解答を完成させられるような段階を踏むなどの手立てが考えられる。

#### 3 数学用語を活用した「学び合い活動」

習得した算数用語を活用できるようにするためには、問題解決を子どもに全て委ねるのではなく、教師が下記のような手立てを用意しておくことが必要だろう。

- ・ 解決の方針を立てる。
- ・ 類題を解決してみる。
- ・ 解決へのステップを設ける。
- ・ 解決できない子どもを集める。
- ・ 自力での解決よりも、まずはその方法を理解できるようにする。 など

数学用語を活用した問題解決ができるようになったら、習熟度に応じた問題演習を行う。それにより、学び合い活動が更に充実するのではないだろうか。



【学び合い活動の様子】



## POINT 1

## 知・技

## 子どもの目的意識を高め、「知識及び技能」の向上につなげる工夫

子どもの目的意識を高めるために発問を工夫し、視点を明確化することで、観察、実験などに関する「知識及び技能」の定着を図る。

## 1 仮説や予想を立てる

観察、実験などは子どもたちにとって実物に触れ、五感を使って「分かる」実感ができる貴重な機会である。限られた授業時間の中で、子どもたちが観察、実験などの「知識及び技能」を身に付けるためには、少しでも多くそれらの機会を経験することが大切だと考える。その中で探求的に学習を進めていくためには、仮説や予想を立てて取り組んでいくことが効果的だろう。

## 2 課題を意識する

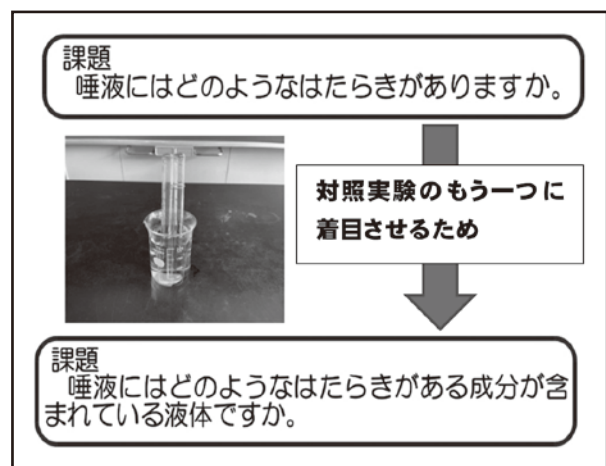
子どもたちが、「なぜ行うのか」「どのような結果が予想されるのか」など自ら課題を意識することで、主体的に観察、実験などに取り組むことができると思われる。また、「知識及び技能」の向上だけでなく、問題解決のための「思考力、判断力、表現力等」を育成することにもつながると考える。

## 3 教師の発問の工夫

具体例として、「唾液のはたらき」を調べる実験では、デンプンのりに唾液又は水を入れて、ヨウ素液とベネジクト溶液に対する反応を調べる対照実験を行う。このときに、「唾液にはどのようなはたらきがあるのか」という課題の捉え方だけではなく、何も溶けていない液体である水を対照物として使っていることに着目することが重要になる。

このように、視点を明確にして、考察や思考をするための予想や仮説を立てることができる

ように、次のような発問の工夫が考えられる。



上記資料の下段の課題にすることで、唾液と水の対照実験を行っている意味が、子どもたちにも分かりやすくなるのではないかと考える。

教師としては、唾液の対照物として水を使っていることは当たり前のように感じるかもしれないが、子どもによっては水を使う意味を理解していないこともあると思われる。そのため、対照実験では何のために条件を変えているのかを、発問を通して子どもに明確にすることが必要だと考える。

このように、観察、実験などの目的意識を高めるためには、着目すべき点のヒントとなるような発問を工夫する方法もあると考える。その結果、子どもたちが観察、実験などを探求的に進め、「知識及び技能」を身に付けることにつながっていくのではないだろうか。







## POINT 1

## 態度

## パフォーマンステストの取組を日々の授業に生かす

子どもたちにとって、大きなチャレンジとなるパフォーマンステストを効果的に活用し、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成や、英語学習への意欲につなげていく。

## 1 動機付け・目的意識

パフォーマンステストは、コミュニケーションの機会であり、AETと1対1で英語のやり取りをするexcitingでchallengingな体験になると子どもたちに伝えている。その際に、英語が「通じた喜び」と「伝わらないもどかしさ」の両方を体験してほしいとも伝えている。うれしさや悔しさで子どもたちの心が動き、学ぶモチベーションにつながるのではないかと考える。

今までに学んだことのアウトプットも、パフォーマンステストの大きな目的の1つにしている。学んだ文法や語彙を実際の会話の中でどう活用するか考え、それに対してAETがどう反応するかを体験することで、生きて働く知識になっていく面白さを感じるのではないだろうか。

## 2 準備と即興

1学期は、AET又は子ども自身が興味をもっているトピックを事前にいくつか考え、それに関する質問や会話の流れを準備しておくパフォーマンステストを行った。

2学期は、1学期の経験を生かして別のAETを相手に即興でやり取りをするテストを行った。テストに向けて子どもたちは、ルーブリックで示された評価基準から、自分なりの努力目標を明確にした。そして、教科書巻末のActivities Plusを活用したQ & Aや、トピックを設定した1分間トークなどを帯活動として積み重ねた。すると、帯活動に目的意識や子ども同士の学び合いが生まれ、主体的に取り組む姿が見られた。

## 3 テスト直後に行う振り返り

テスト後は、Google Formsを活用して振り返りを行った。子どもたちの記述には、「コミュニケーションの楽しさと難しさを感じた」「1学期のテストと比べて成長を実感できた」「英語がとっさに出なくて悔しかったので、テスト後すぐに調べた」「知識だけでなく、ユーモア・度胸・リアクション・アドリブのような対応力も、実際のコミュニケーションでは大切」といった気付きが見られた。

このように、普段の英語学習が実際の活用場面とつながるとき、子どもたちは学びを実感し、学習意欲を高めていくと考える。

接続詞 不定詞 動名詞

About This Test

- 1.5 minutes
- keep conversation
- eye contact & smile
- clear(loud) voice
- use what you learned
- choose good topics

Korea fashion hairstyle Christmas video games

How to Keep Conversation

受ける・ふくらます・返す

相手の言ったことをよく聞いて、反応する

情報を付け加えて、話題をふくらませる

コメントや質問をして、相手に話す機会を返す

【テストの内容やポイントを伝えるスライド】

# 授業づくり

幕別町立札内中学校 教諭 山本 由佳



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

知・技

## スプレッドシートを活用した「書くこと」の学び合い活動

シートの共有によって互いに学び合い、自分の変化を確認することができる。また、インプットの帯活動と組み合わせることで継続的に取り組むことで、アウトプットの力を養うことにつながる。

「書くこと」には、語彙や文法のインプットと、自分の考えを文章に組み立てるアウトプットの両方が必要になる。ここでは、子どもたちが自分のタブレット端末のスプレッドシートに英文を入力していく実践例を紹介したい。

### 1 使える表現を増やす (インプット)

連語を帯活動で学習していく。子どもたちはその中から使う表現を自分で選び、組み合わせることで英文を作る。表現したいことが出てくると、自主的にタブレット端末で単語を調べるので、使える語彙が更に増えることが期待できる。

### 2 条件を設定して考える (アウトプット)

- (1) 文法…例えば、「I以外の主語を使う」「時制を現在形以外にする」「既習の動名詞・不定詞・比較級を使う」「接続詞を使って英文を長くする」などの条件を設定すると、子どもたちは文章の組み立て方を工夫して表現する。
- (2) テーマ…「夏休み」のようなお題を設定することもあれば、「日本の城」や「アニメのキャラクター」など自分の好きなもの

を継続的に英文に登場させることもある。すると、子ども自身が楽しんで英文を考えている様子が見られた。

この実践では、シートを全員で共有しているので、子どもたちは互いの英文を見ることができる。そのため、ほかの人のアイデアや、教師の添削などを見て、自分自身の学びにつなげることができると思われる。また、シート上に蓄積された自分の英文を見返すことで、修正や成長の確認ができるだろう。さらに、英文のタイピングに慣れていくことも期待できる。

教師としては、文章がスプレッドシートに入力されることで、添削やコメントがしやすいのが利点の一つである。紙のやり取りのロスも少なくなる。何より、子どもたちの英文入力をリアルタイムで見られるため、個別に問いかけや指摘をしたり、全体で紹介して共有したりできる。

子どもたちが互いに学び合い、英文を作り出す面白さを感じる体験を積み重ねていくと、「書くこと」の力が少しずつ、そして確実に身に付いてくるのではないだろうか。

	A	AC	AD	AE	AF
1		今日の新作をここに入力!!	I使った	英作文がんばったね!	!!左で直された部分を修正して、もう一度入力し
2	出席番号	February 1 [No.66~70]	連語No.	添削してあります!!!⑨	英文全体を、正しくもう一度入力。ミスのなかった人も。
7	4	My mother sent snacks to my sister a few days ago but she can't payed enough money.	66,67	can't payed→couldn't pay 「払えなかった」	My mother sent snacks to my sister a few days ago couldn't pay money.
8	5	My mother sent a message to my brother last week because she wanted know his recent situation.	67,70	wanted to know recent situation=「近況」、よく調べたね!	My mother sent a message to my brother las she wanted to know his recent situation.
9	6	If I send something to my grandmother, I want to send vegerables as sweet as fruits.	67,69	接続詞Ifとas~asがすごい! vegerablesのスペルが惜しいとてもいい文だね👍おばあちゃん喜ぶよ	If I send something to my grandmother, I war vegetables as sweet as fruits.
10	7	My mother send potato to my grandmother.	67	My mother sent potatoes to my grandmother.	My mother sent potatoes to my grandmother.
11	8	I sent food to my brother last year so you don't have to send this year.	67,68	今年も送ってあげて〜👍 sendのうしろにit(=food)、soの前にカンマを入れよう	I sent food to my brother last year, so you do it this year.

【共有しているスプレッドシートの画面】